

日時：H25.1.30（水）14:00～16:30
「環境リスクコミュニケーションセミナー」
場所：岡山ふれあいセンター 大ホール

プログラム②

リスクコミュニケーション取組事例紹介

講師：東芝キャリア株式会社 津山事業所

津山総務担当 米山 康晴氏

津山環境工務担当 山本 孝氏

皆さん、こんにちは。ただいま紹介をいただきました東芝キャリアで総務を担当しております米山です。よろしくお願いします。それともう一人。

津山環境工務の山本と言います。よろしくお願いします。

今日はリスクコミュニケーションの事例発表ということで、二人で発表させていただきますけれども、まず私のほうからは、せっかくの機会ですので少し企業のPRもさせていただきながら、こういう地域あるいは行政とコミュニケーションを取るようになった経緯とといいますか、そういったところを中心にお話ができればなと思っております。後半のところでは山本のほうから、実際の当社のコミュニケーションの実例発表という形で行いたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

それでは進めさせていただきますが、まずは会社紹介のほうを簡単にさせていただきます。社名は東芝キャリアということでして、ここに書いてあります、本社は港区の高輪といって、品川駅のすぐ近くに構えております。東芝キャリアという会社はですね、ここへも書いておりますけれども、東芝ですね、株式会社東芝とそれからキャリアというのはアメリカの企業でして、アメリカのキャリア社という空調メーカーです。それが、ここにも書いてありますけれども、合併会社を1994年の4月に立ち上げまして、そこでできた会社が東芝キャリアという会社であります。

その当時は、我々も津山工業所に所属するものにとりましては、ここにありますが、東芝キャリア工業という会社で、ここはアメリカのキャリア社の100%出資の子会社でありまして、ここに所属をしておりました。99年当時に、この東芝キャリアという会社ができたんですけれど、しばらくは東芝キャリアと東芝キャリア空調システム、これが販売会社であります。それから東洋キャリアという3社でやってきたんですが、2008年に、この3社を統合いたしまして、今のこの東芝キャリアというふうに変化をしております。

それから、これは国内の事業所とそれから営業拠点を示した図でありますけれども、ここにある富士事業所、これは静岡県の富士市というところにありますが、これが元々の東芝の富士工場であります。ここに津山事業所というのがありますけれども、この津山事業所と、それからここにもう一つ掛川事業所、これは静岡県の掛川駅の近くです。この二つが旧東洋キャリアという会社でありまして、津山事業所のほうが主に生産拠点でありまして、掛川事業所のほうは研究開発部門ということでやっておりました。営業拠点として北海道を除く都道府県にそれぞれ営業所なり、支社というところで配置をしております。

日時：H25.1.30（水）14:00～16:30
「環境リスクコミュニケーションセミナー」
場所：岡山ふれあいセンター 大ホール

それから我々が実際に作っております製品ですけれども、ご覧のように空調機器、業務用の空調機器がメインであります。この赤の枠で囲ったものが津山事業所で作っている製品になります。これは商品名、ここに書いてありますけれども、スーパーフレックスモジュールチラーとか、ユニバーサルスマートエックスと書いてありますけれども、これは水を使って、冷水とか温水を作り出す機械であります。冷温水を作り出したものを室内に配管を使ってエアコンの冷暖房に使うと、そのようなものであります。最後には給湯器ですね。家庭用の給湯器というは小さいものですが、それを大きくした業務用の給湯ボイラーにも参入をしているということです。あと富士事業所のほうでは店舗用のエアコンであるとか、ビル用であるとか、コンプレッサーであるとか、そういったものを作っております。

それから津山事業所の概要でありますけれども、ここから車で約2時間ほど県北のほうに走った津山市国分寺というところにありまして、これが航空写真になるんですけれども、敷地面積が約25万平方メートル、建物が3万平方メートルで、ここに山が映っていますけれども、それからここにため池も、これ全部、会社の敷地になります。恐らく全国の工場の敷地としては、こういう敷地を有している工場というのは全国でも珍しいのではないかと考えております。こういう敷地を所有しているものですから、このあたりに民家があったり、それから個人の田んぼであったり、畑であったりというのが、すぐに隣接していると。そういう立地条件、特徴があります。それからここに池、ここにももう一つあるんですけれども、これは実は昔ですね、地域の方の田んぼであったり、畑の農業用水として使われてきたため池です。今は農業用水としては使っておりませんが、1974年ですね、創業当時は農業用水として、これを使っておりました。そういったことで地形と敷地内に一部農業用水として使っていた、こういう立地条件があって、そういったことから地域の方、あるいは行政との連携を図りながら事業を進めていく必要があるというふうに、恐らく我々の先輩が判断したのでないか、ということで積極的に地域とのコミュニケーションを、あるいは情報公開も含めてやっていこうと考えたのではないかなと思うわけです。

創業が74年ですが、私がこの会社に入りましたのが75年なんですね。山本のほうはもう少し後ですが、そういうふうなコミュニケーションを取りだした経緯と過去の資料とか、いろいろと当たって見たんですけれども、中々明確なものがございまして、なにしろ40年近く前のことですから、そういった資料が中々見当たらなかったのは自失ですが、恐らくこういった地形なり、他にもいろいろ要素はあったかと思っておりますけれども、そういったことがあるんではなかろうかなと思います。

それからもう少し、津山事業所の歴史なんですけれども、先ほど言いましたように、旧会社名で言いますと東洋キャリア工業という会社でして、ここは1930年、ですから戦前ですね。空調メーカーとしては最初に創業したメーカーではないかと思っております。アメリカのキャリア社と、それから三備工業というところの合併によって、東洋キャリアというのができまして、創業当時は日本の国内で空調設備を作るような機械設備であるとかノ

ウハウがなかったようでして、アメリカのキャリア社で作られたものを輸入して日本のいろいろなところに設置をしていくということで、この三備工業さん、設備屋さんですから、そういったことを中心にやっていたようです。その後、しばらく経ちましてから、日本国内でも空調機器を作るような工場を建てようじゃないかということで、これを機にですね、工場とか、埼玉工場とか、関東を中心に生産拠点を置いていったわけですが、東京の通勤圏内がだんだんと都市化が進みまして、工場運営がなかなか思うようにできない。

そういう中で次の候補地をどうも探していた気配もありますけれども、津山工場ができたのが1974年でありますけれども、ここにちょっと書いてありますけれども、工場配置法、それから中国通産省の第1号と書いてありますけれども、この当時ですね、ちょうどオイルショックの直前くらいだったんですね。オイルショックというのがこれのちょっと後じゃないかと思うんですけれども、その当時、津山市としても、学生が高校なり出て、地元になかなか定着しないと。定着しようにも勤め先がないというような時代背景があったようです。その時に津山市としても何とか学生を地元に着させたいということで、工場誘致を盛んに行っていたという話を聞いております。そこに、たまたま東洋キャリアが手を挙げて、岡山県の津山にやってきたというのがきっかけだろうと思います。

それで、その当時、先ほど航空写真を見ていただいたとおり、ああいふ敷地ですから津山市との間に自然保護協定、あるいは公害防止協定というのを結びまして、同時にすぐ近隣の町内会ですね、こういったところの懇談会を開始しておるようであります。これが時代背景をずっと書いたものです。こういうふうなものも作っておりますけれども、経緯としては本当に二人でずっと資料を当たってみたんですが、明快なものがありませんでした。

想像するしかない部分もあるんですけれども、一つはですね、企業といえども地域の中で活動しているわけですし、我々従業員も8時から5時まで勤めが終わって、一歩事業所の外に出ますと一人ひとりが地域の住民に戻るわけですね。ですから、やはり我々が住んでいるところに怪しげな会社があったりですね、不正なことをやるような会社があると、やはり反対運動とか、地域住民とのトラブルが出てまいります。そういったことをやはり防ぐと。もちろん企業自体もそういった不正をしたりとか、環境に対してのリスクを高めるようなことをして許されるわけではないんですけれども、それをやはり住民の方にも理解をしてもらって、行政とも連携をとりながら、そういったことを進めていくというスタンスに当初からなっただけではないかなと。

それからもう一つは、資本がやはりアメリカ資本でしたから、皆さんご存知のとおり、アメリカという国はいろんな人種の集合体の国でありますから、いろんな契約社会と言われるし、あるいはもう一つは訴訟の社会と言われる方を考えるケースもあるかと思います。ですから、アメリカの文化が、そこらへんに、日本の会社を作る時に、そういったところが少しはあったのではないかなと思います。ですから、そういったある程度のリスクをあらかじめ予想して、それに対してできるだけの手当てをしていくというところを、そういう文化が経営の中に取り組みされたのではないかなと思っております。

日時：H25.1.30（水）14:00～16:30
「環境リスクコミュニケーションセミナー」
場所：岡山ふれあいセンター 大ホール

以上簡単ですが、私のほうから事業所の紹介と経緯につきましてお話をさせていただきました。では、山本君のほうに交替します。

それでは米山のほうから経緯ということでお話させていただきまして、私のほうから事例ということで、実際に当社がやっているリスクコミュニケーションの事例を発表させていただきたいと思います。

T C Gと書いてあります。これは東芝キャリアの略語になっております。当社の環境推進体制ということで、当社は環境経営責任者に社長がなっております。社長の下に環境推進責任者がいまして、その下に環境推進副責任者ということで、ここは各本部の本部長がなっております。この各本部長が環境経営、リスク管理、事業プロセス、製品・サービス、環境推進活動、環境コミュニケーションといった内容を推進しております。

I S Oを取られている会社はどこでも環境基本方針ということで作られていると思いますが、当社も環境基本方針ということで作成しております。当社の環境基本方針では『家庭用及び店舗、オフィス用のエアコン、ビル・工場用空調機、列車空調装置、換気扇、冷凍機、コンプレッサー等の開発・製造・販売・サービスを含む企業グループとして、環境調和型製品を社会に提供すること及び環境負荷低減に配慮した事業活動を通じて、社会貢献することを目指しています。そして、かけがえのない地球環境を健全な状態で次世代に引き継いでいくことが、現存する人間の基本的責務との認識に立ち、環境活動を推進します』と舌を噛むような長い項目が書いてありますが、実際にやっている項目としては、環境経営の推進の項目として5項目、環境調和型製品の創出として3項目、その下に地球内企業としてという項目があります。

この中にリスクコミュニケーションの内容が入っていますが、一つとして『優れた環境技術や製品の開発と提供及び地域社会との協調連携により、環境活動を通じて社会に貢献します』という、ここで地域と社会ということが出てきています。2番目に『相互理解の促進のため、積極的に情報開示とコミュニケーションを行います』ということで、環境の基本の中に、こういったコミュニケーションの項目を前面に出しております。

後は環境のほかにですが、東芝あたりは、東芝環境経営監査という監査項目があります。これは東芝さんのI S O 1 4 0 0 0に近いものと思っていただければと思います。1 4 0 0 0と違うのは現場中心としまして、現場の監査というのがあります。その現場監査のほかに、経営監査としまして環境活動、どんな環境活動をやったかということによって、A B C D E Fということでランキングされます。そのランキングされる中に、監査項目の中に、ここですね、地域住民との対話実施をしていますかと。対話を実施するだけでなく、継続的に毎年やっていますかという項目があります。後は地域行政との対話をしていますかと。これも1年じゃなくて継続的にやっていますかという項目があります。この項目によってA B Cというランキングをされます。こういった監査項目がありますので、経営者も積極的にこういう活動をしなさいという指示をしていきます。

そういった指示を受けまして、私たちがいろいろな活動をしています、一つにはウェブとか環境ダイジェストレポートというものを作ったり、環境CSR報告書というのを作って、広く皆さんに情報を提供するという活動と、積極的に直接対話するということもやっております。そのことによって当社の活動の理解と相互の協力関係を築くということを目的としてやっております。後は本部長単位で、副責任者もいますけど、各事業所の単位で独自の活動を展開しているところなんです。東芝キャリアのホームページの中の環境の項目を見ていただければ、そういった各事業所の活動事例が載っていますので、一度見ていただければと思っております。

実際にやっている活動としまして、事例を紹介していきたいと思います。一つは近隣町内会様との、役員様との懇親会を年1回開いております。これの目的としましては、当社の活動を理解していただくことと、近隣町内会様とのご意見や苦情を聞く場を持つということと、地域の中で共存共栄ができる関係作りをしたいということで、これは創業当初、1974年からやっております。創業当初はですね、お互いの意見交換のみという形でやっておりましたが、東芝と一緒になったところから、環境への活動報告といったことも町内会様との懇親会の中でやっております。

どういった形でやっているかと言いますと、先ほどの航空写真で見ていただきましたけど、近隣に2町内会ありますが、この2町内会の役員様に来ていただきまして、当社としましては事業所長、総務部長、環境管理責任者、環境担当長という者が参加しまして開催しております。内容としましては事業所長のほうから経営状況とか当社の新製品とかいうような説明をしていただきまして、私のほうから環境活動の報告ということをやっております。後は工場見学も実施しまして、その後、軽い食事をしながら懇親会をするといった形でやっております。この場で実際には意見交換をしていますが、なかなか意見がきづらいということで、この懇親会のほうで食事をしながら雑談をするというところで、意見が出やすくなっております。

過去に出た意見ですが、境界線上、先ほどの航空写真で見ていただいた雑木と山林がたくさんあります。その辺の雑木を整備してほしいとか、薬品管理をどうやっているんですかとか、近隣に小学校がありますので、運動会の時の駐車場を貸してほしいとか、経営状況は大丈夫ですかといったようなご意見をいただいております。こういった意見に対して、雑木を切ったりとか、薬品管理方法を説明したりとか、運動会の時の駐車場を貸し出したとかということをやっております。

事例2としましては最終放流口の採水立会いというのをやっております。当社は瀬戸内法の特設施設を有してまして、この排水処理から出た水を採水する時に、年4回、行政と近隣の町内会の役員さんも呼んで採水をしております。その採水結果は行政と町内会様に報告しております。これも目的としましては、協定書ですね、公害防止協定ということで、1974年に組んだ時に、そういった話し合いがあったようです。年4回実施しまして、これのよいところとしましては、行政側は実際に立ち会うことによって、企業の管

理状況が実際に直接見られるということと、下流域のリスク管理ができるというところではないでしょうか。近隣地域としましては、その企業がどんな水を流しているか分からないというんじゃなくて、直接見て監視することができて安心できるということです。当社としましては、こういった近隣地域の方、行政の方の立会いの下でやっていますんで、きちっとした形で管理しなくちゃいけないということで、従業員とかの信頼、安心できる環境施設の管理というのをしていくということで良い相乗効果が生まれております。

続きまして事例3ですが、環境対話会の実施ということでやっております。これは行政と近隣町内会の役員さんとやっていますが、これはわざわざ呼んでやるという形じゃなくて、先ほどの事例2で年4回、協定のほうで来ていただくという形になっています。この来ていただいた後に1時間ほど時間をいただいて、日頃やっている環境活動の報告をさせていただいております。この目的としましては、行政と町内会役員様と対話することにより、行政の取組や要望を当社の活動に取り組むことができます。行政担当者と話ができるため、当社の要望も話しやすくなります。ということです。これは2009年から年2回実施しております。当社のほうからは事業所長、総務担当、環境長が出て、これは環境中心の話になっております。過去に出たご意見としましては、津山市が推奨しているグリーンカーテンをしてみたらということで、当社もその次の年からグリーンカーテンに挑戦しております。後は太陽光どうですかということで、今計画中というふうにはなっていますが、一応そういった意見も取り入れるようにしています。その他には県が行う生物多様性の説明会に参加してほしいということで、近隣企業の代表として生物多様性の説明会に参加させていただいています。こういった対話から出ている意見に対応しているという形でありますが、特に堅苦しくやっているわけではなくて、過去何カ月やった環境の活動を報告しているという形になっています。

事例4としましては、先ほど生物多様性の話が出ましたが、広い敷地の中に緑地がかなりあります。その緑地と近隣には大きな広戸川という川がありますが、こういった立地条件がありますので、生物多様性の活動を東芝では最近、積極的に進めるという形になっています。その中で津山事業所の生物多様性活動という形で、行政といま連携しようという形で活動を推進しているところですが、今回初めて事業所内の生物、自然観察会ということで、岡山県の共同による環境学習出前講座というのに申し込んでやりました。事業所の中、何年も働いている人も、こうやってじっくり自然の中で触れ合うということではなくて、ああ、こんなものがいたのかという新しい発見ができました。今後、予定としましては今度は行政を呼んだりとか、地域の住民を呼んだりという形で、こういった自然観察会を開きたいなというふうに計画しております。

活動事例5としまして、その他の活動ということで、ここに挙げておりますが、工場見学の受け入れということで、今年は12月時点で69組、519名の方が来られております。年々工場見学の方が増えてきております。次に2番目としまして、近隣高校への臨時技術者の指導ということで、これは勝間田高校さんのほうに、アークとかガス溶接の講師

日時：H25.1.30（水）14:00～16:30
「環境リスクコミュニケーションセミナー」
場所：岡山ふれあいセンター 大ホール

を派遣しております。3番目としましては支援学校の学生、具体的に言いますと岡山瀬戸高等支援学校、誕生寺支援学校さんの生徒さんの研修の受け入れという形でやっております。今週も1名、2週間ほど研修に入られます。後は省エネ講演会の講師派遣ということで、中国電力さんの技術者に対する省エネ事例の発表とか、その他近隣の地域の企業さんに当社がやっている省エネの事例という形で発表するという形で講師を派遣しております。後は美しい町づくりの運動推進事業ということで、これは先ほど行政との対話会で出ました。こういう形で協賛してほしいという形でありましたので、協賛させていただいております。後は山林の雑木整備。草刈りを年4回実施しています。これも対話会の中で出た内容で、こういった活動をさせていただいております。後は工場周辺の清掃活動、工場内の清掃活動、後は近隣小学校、町内会の運動会、村祭り等への駐車場の提供。これも対話会で出た内容であります。10番としては交通安全指導員による工場周辺の交通安全巡視ということでやっております。それぞれの活動の中にも、環境の対話会の中で出た活動をやっていることが多く見られます。

まとめとしまして、当社がなぜこういった活動をしてきたかということで、まとめましたが、まずお互い顔を合わせて話すことから始めております。その中で、いろいろと取り巻く環境が変化してきて、対話の中に環境管理項目や環境活動といった内容を話すようになりました。当社ISO14000をとって、事務所内の環境管理がより厳しい基準で管理していただいております。この内容を対話会に行って報告することによって、自分たちの活動が地域で評価されてきております。また、事業所内のリスクの地域と行政に共有化できております。資料作りですが、特別作成するわけではなく、ISO14000の監査用で作ったものを利用して発表しております。その時に注意しているのは、相手が専門家ではないので、分かりやすい内容として説明しております。対話会で出たご意見は貴重な意見としまして活動に生かし、次回の対話会の時にこういった活動をやらせていただきましたよということでフィードバックするようにしております。最近では対話会の後のご意見としまして、良い活動をしていますねとか、地域によく協力していただいておりますとか、感謝していますという、ありがたい意見をいただいておりますので、私たちも今後より一層こういった活動をしていきたいと思っております。

最後ですが、私たちは、先ほど米山も言いましたけども、企業は地域の一員であるという心で活動をやっております。なかなか私たちの活動が参考になるかどうか分かりませんが、参考になる部分があればぜひやっていただければと思います。これで終わりたいと思います。ありがとうございました。